

## JAEF REPORT

令和3年1月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

## 【目次】

- |                                   |                           |
|-----------------------------------|---------------------------|
| ◆ 新年のご挨拶                          | ◆ 各部会・委員会にて令和2年度上期活動状況を報告 |
| ◆ 令和2年度教材提供校に贈呈式、懇談会に代わる交流促進活動を実施 | ◆ 24道府県(43件)の研修会に講師を派遣    |
| ◆ 動画学習サイト「早わかり!クルマ塾」に7本のコンテンツを掲載  | ◆ 令和3年度 講師派遣募集開始          |

## 新年のご挨拶

財団運営

新年おめでとうございます。

旧年中は弊財団に対し格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの蔓延により、感染による直接の被害のみならず、経済的にも社会的にも、そして何よりも学校教育にも大きな影響が生じた1年でした。財団事業も当然ながら大きく影響を受けておりますが、その一方でコロナ禍でもできることをいろいろ試みてまいりました。

技術教育支援事業では、生徒のクルマに対する関心をより高めるため「見る・触れる・感じる」をコンセプトにこの3年間で提供教材の大幅な見直しを行いました。昨年は北海道、関東、北陸、中国地方の14都道県を対象に自動車技術教育用教材の公募を行った結果、全14都道県91校(同地域前回87校)から応募があり、91校すべてに第一希望教材を提供することができ、教材提供に関しては計画通りの活動ができました。

しかしながら、都道府県レベルでの自動車関係団体と高校との連携強化の場である、教材贈呈式・教育懇談会については中止せざるを得ませんでした。これに代わる交流促進策として、教材提供校に対するアンケート方式による意見・要望の取りまとめ、インターンシップ等に関する自動車関係団体の相談窓口一覧の作成を行い、高校と自動車関係団体とで情報共有することにいたしました(本紙P2参照)。

研修事業の講師派遣については、高校への案内・申込受付を従来より2か月前倒したことにより、当初は前年度を上回るペースで申し込みが来ていました。しかし、コロナ禍による休校、大人数での授業の見合わせによりキャンセルが相次ぎ、前年度の半分程度の講師派遣件数、参加人数にとどまる見込みとなっています。先生方を対象としたJAEF研修会についても、2回の実施を計画していましたが、実習型の研修会は中止とし、講演型研修会の1回になりました。なお、移動

の自粛で参加を見送らざるをえなかった先生方のために、講演の様態を財団ホームページにアップし動画視聴できるようにいたしました。

調査研究事業では、2022年度から社会科系の授業で『公共』が必修科目となることを見越し、昨年度に引き続き『公共』用の副教材作成を行っています。本年度末には暫定版を完成させる予定であり、計画通り進捗しています。一方で、国内調査は3回の計画を2回に減らしての実施、海外調査は中止といたしました。なお、コロナ禍におけるドイツでの新たなクルマの活用策について、現地より情報を取り寄せて、動画の作成・配信を行い、海外調査に代わる情報収集、情報発信を試みました。

最後に普及啓発事業では、高校生にもクルマに関する情報発信を行いクルマへの関心高揚につなげようと、本年度は動画学習サイト『早わかり!クルマ塾』を開設しました。本サイトは、工業系の自動車工学・原動機や地歴公民科、総合学習に役立つ『クルマのまなび舎』、授業で活用できる話題等の情報を発信する『クルマ何でも情報館』から構成されています(本紙P3参照)。コロナ禍によりリモート学習、オンライン学習が重要視されてきており、本サイトは時宜を得た取り組みになったと思います。今後はコンテンツの充実とともに、認知度の向上を図っていきたくと考えています。

今後も厳しい状況は続くと思いますが、新しい社会様式に対応した取り組みに財団活動も変容させていくとともに、高等学校における自動車技術教育、交通社会教育の一層の強化に挑戦していく所存でございます。例えば、教育現場のICT化進展をにらんだ既存教材のデジタル化や、実習型講師派遣プログラムの開発推進などを行っていきたくと考えております。これらの活動には皆様のご協力が不可欠であり、引き続き皆様のご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

## INFORMATION

1~3月予定

- 9都県(12件)の研修会に講師を派遣 1月~3月
- 各部会、委員会を開催 2月
- 第23回理事会を開催 3月

財団は、自動車技術教育支援事業の交流促進活動として、各都道府県の自動車教育推進協議会（※）と共催で、「自動車教育用教材目録贈呈式」と併せ、「教育懇談会」を開催し、地域の教育関係者と自動車関係団体との連携強化を図っている。

令和2年度はコロナ禍による会合自粛の中、已む無く「教育懇談会」の開催を断念したため、これに代わる交流促進策として、教材提供校を対象に自動車技術教育の現状課題に関するアンケートを実施して集約結果を自動車関係団体と共有することとした。教材提供校（全91校）から回答を得て、集約結果を今月中にも自動車関係団体へ送付する予定である。

なお、教材提供校と教育委員会に対しては、当アンケートの集約結果に加え、各地域の自販連支部から提供を受けた会員会社の「インターンシップ等相談窓口一覧表」も提供する予定である。

自動車技術教育の現状課題に関するアンケート集約結果の概要は、以下の通り。

## 【アンケート項目】

- ① 自動車技術教育の現状と課題
- ② 自動車技術者の人材育成に向けた現状と課題
- ③ 自動車関係団体や財団に対する質問・要望
- ④ 自動車技術系講師派遣の活用について

## 【回答結果の要旨】

### ①自動車技術教育の現状と課題

#### ➤ 履修時間は減少傾向

自動車専科の減少や学科統合などの流れの中で、自動車専科以外では自動車技術教育の履修時間数は減少傾向にある。中には課外活動として勉強会を実施しているとの回答もあった。

#### ➤ 課題は最新技術への対応

自動車技術教育の課題としては、最新技術への対応、教える側の最新技術に対する知識不足、履修時間の確保や設備教材の不足などの回答が多くあった。

#### ➤ 学生のクルマ離れは進行

クルマは単なる移動手段との認識が進み、学生のクルマ離れが進行していることが多くの学校から報告された。

その他、現在の教育現場の状況や現場が抱える様々な課題の回答があった。

### ②自動車技術者の人材育成に向けた現状と課題

#### ➤ 自動車関連への進学・就職は横ばい

生徒数の減少はあるものの、ここ数年は変動がないという回答が多い。

### ②自動車技術者の人材育成に向けた現状と課題（続き）

#### ➤ 進学では学費、就職では資格取得が負担

進学については、学費等の経済的な問題という回答が多数寄せられた。就労後の待遇が学費に見合わないという回答もあった。

就職では、働きながらの整備士資格取得の負担、土日勤務をはじめとする労働環境や待遇面の改善の必要性について回答が寄せられた。

#### ➤ インターンシップや職場見学を実施

課題克服に向けた学校側の工夫としては、インターンシップや職場見学の実施、課題研究や課外活動で自動車関連イベントやものづくり大会参加を目指す活動や、自動車関係団体による講習の実施などが寄せられた。中には、専門教科の教員で市内ディーラーへの挨拶回り実施による連携強化などの回答もあった。

### ③自動車関係団体や財団に対する質問・要望

#### ➤ 自動車関係団体へも様々な要望

整備士資格制度の改善、実習実技指導や講習の実施、エンジンやブレーキパーツなどの提供や、整備士の労働環境や待遇の改善と共にその周知の必要性など様々な回答が寄せられた。

中には、当財団の技術系講師派遣を契機に講師所属会社に就職した、との喜ばしい報告もあった。

#### ➤ 教材提供の継続を強く要望

教材提供活動の継続要望と共に、提供教材について様々なご意見、ご要望が寄せられた。中には、タイヤ充填安全教育講習、砥石安全教育講習や低圧電気安全講習などの資格取得を足掛かりとした人材育成（確保）のご提案もあった。

### ④自動車技術系講師派遣の活用について

#### ➤ 講師派遣の活用志向は約3割

コロナ禍の影響があるとはいえ、活用志向があるのは約3割という状況で、財団のPR不足も少々感じる結果であった。

活用の障害として最も多かったのは、受講時間の確保で、今年度特有のコロナ禍に関する回答も目立った。

※ 各都道府県の自動車販売店協会、自動車整備振興会、軽自動車協会、日本自動車連盟支部、日本損害保険協会支部の5団体（一部の県では中古車販売店協会が参加）を中心に構成。

財団は6月末に開設した動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」にて、10月からの3か月間で合計7本のコンテンツを掲載した。当動画サイトは、ICT化が進む教育現場に合わせ、授業の一部或いは生徒の自主学习等での活用、話題のトピックスに関する情報提供を通じ、教育支援及び自動車に対する関心の高揚に繋げることを目的としている。

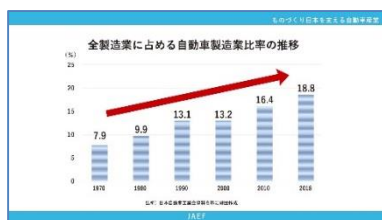
この度公開したコンテンツは次の通り（動画タイトル右のくまは掲載日）。これらの他にも、今後当サイト内のコンテンツを順次制作、更新していく予定である。

### 【クルマのまなび舎】計5本

- 1) 『日本における自動車の誕生と大衆化』〈10/9〉  
日本にいつ自動車が登場し、モータリゼーションが進んだのかについて、その過程の節目で登場した象徴的なモデルと共に紹介



- 2) 『ものづくり日本を支える自動車産業』〈10/20〉  
自動車産業がいかに日本のものづくりや日本経済を支えているかについて、自動車関連ビジネスに重要な「サプライチェーン」の概要などを交え、解説



- 3) 『日本における交通事故との闘い』〈11/19〉  
モータリゼーション以降増加した交通事故を減らすための取組を、各時代の背景、当局による諸施策や自動車メーカーによる安全技術普及の動きを交え解説



- 4) 『交通事故削減の取り組み(1)～歩行者保護のための安全技術～』〈12/1〉  
2019年の「歩行中」の交通事故死者が1,100人を超える深刻な状況において、歩行中の交通事故死者が多い理由や、事故減少のための様々な安全技術を紹介



- 5) 『交通事故削減の取り組み(2)～自動車乗用者保護のための安全技術～』〈12/10〉  
交通事故の要因の9割を占めるとされる「ヒューマンエラー」を防ぐための技術開発の動きや、高齢ドライバーによる事故の特徴とその対策などを紹介



### 【クルマ何でも情報館】計2本

- 1) 『歩車分離式信号のある交差点の渡り方』〈10/29〉  
人とクルマによる事故を減らすことを目的とした歩車分離式信号の交差点を通行する際、自転車利用者が留意すべき点を解説



- 2) 『多様化するカーシェアサービス～個人間でもカーシェアリング～』〈12/16〉  
「所有」から「共有」へという社会の意識変化、保有車両の有効活用のニーズの高まりで、カーシェアサービスの形態が多様化しつつある現状をレポート



上述のコンテンツ掲載に加え、当動画サイトの認知度向上、視聴促進を図るべく、当動画サイトの告知チラシを作成し、12月初旬に以下活動を実施した。

- (公社)全国工業高等学校長協会 鈴木事務局長より、同協会 都道府県代表校長あてにメール配信、各会員校への展開を依頼
- 本年度自動車教育用教材提供校91校の担当教諭あてにメール配信
- 東京都工業校長連絡会(12/3、都立工芸高校)にて、財団より当動画サイトの趣旨・概要を説明



▲財団より説明を行った東京都工業校長連絡会の様子

## 各部会・委員会にて 令和2年度 上期活動状況を報告

…令和2年10月～11月

財団運営

財団は10月から11月にかけて、右表の通り事業ごとの部会や事業委員会、企画委員会を開催した。コロナ禍における各事業の運営に関し、当初計画していた活動の延期、縮小、中止を余儀なくされた影響やその他活動の進捗状況等を報告し、了承された。

個別には、研修事業に関しては「ウィズコロナ下でのオンライン講習会活用の検討が必要」、普及啓発事業に関しては「制作した動画について、SNSを活用した告知を強化すべき」、技術教育支援事業に関しては「コロナ禍で講師派遣活動が困難な状況だが、学校側よりそれに代わる活動の要望はないか」、そして財団運営に関しては「今年度発生見込の剰余金の解消に対し、どのような取り組みを考えているのか」等の意見・質問があった。

### 【部会・委員会の開催実績】

| 部会・委員会名                 | 開催日                       |
|-------------------------|---------------------------|
| 研修部会（研修事業）              | 10/30（金）                  |
| 調査普及部会<br>（調査研究／普及啓発事業） | 10/30（金）                  |
| 技術教育部会<br>（技術教育支援事業）    | 書面報告、及びeメールでの質疑応答、意見交換を実施 |
| 事業委員会（事業総括）             | 11/5（木）                   |
| 企画委員会（財団運営）             | 11/5（木）                   |

## 24道府県（43件）の研修会に講師を派遣

…令和2年10月～12月

研修

財団は、自動車の最新技術や整備技術などの「自動車技術」に関する研修メニュー、および「環境・交通技術」「交通安全」に関する研修メニュー（計17種類）を用意し、高等学校や教育委員会からの要請を受け、専門の講師を派遣している。10月～12月は24道府県（43件）の研修会に専門の講師を派遣し、合計7,787名が受講した。コロナ禍により、当該期間で計14件のキャンセルが生じ、前年同期と比べ、件数で16件、受講者数で約5,970人の減少となった。

全43件の研修会の内訳では、社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒を対象とした「交通安全」が31件、及び「環境・交通技術」が1件、主に工業系の生徒を対象とした「自動車技術」が11件であった。

研修メニュー別実績は、「交通安全」では「ドライバー（自動車）からの見え方を踏まえた自転車・歩行者の交通安全」12件、「自転車・歩行者から見た道路交通と安全」6件、「交通事故を起こして問われる責任」5件、「自転車を取り巻くリスクとその責任」4件、「夜間の交通安全対策」3件、「二輪車（バイク）の交通安全」1件であった。



▲北海道長万部高等学校での交通安全研修会

「環境・交通技術」は、「交通技術と社会のあり方（自動運転と紛争解決）」が1件であった。

そして「自動車技術」は、「日産・電気自動車について」、「マツダ・SKYACTIVエンジンについて」が各3件、「トヨタ・ハイブリッド車について」、「ホンダ・ハイブリッド車について」が各2件、「ガソリンエンジンの分解・組立」が1件であった。

自動車の最新技術の研修では、講師会社により「見る 触れる 感じる」というコンセプトに沿った様々な工夫が実施され、受講した生徒にインパクトのある内容となった。



▲山口県立柳井商工高等学校での自動車技術研修会

講師の派遣にご協力をいただいた関係団体、企業等の皆様には、紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

（講師派遣実績表は、添付にて掲載）

## 令和3年度 講師派遣募集開始

…令和2年12月

研修

財団は、令和3年度の講師派遣支援の申込要領を、12月25日付で全国の高校（約5,950校）へFAXで案内するとともに、申込受付用のホームページを開設した。本案内については、次年度の計画策定に反映させられるよう、昨年同様に12月に募集を開始した。

コロナ禍の影響が続く環境を踏まえ、講師派遣においてもオンラインやリモート研修を駆使し、3密回避の体制での研修も徐々に取り組んでいく。

講師派遣の対象は各地の学校、教育委員会等が開催する研修会で、研修メニューは昨年度のメニューを見直し「自動車最新技術」、「交通安全」分野等の計16メニューとした。

関係団体・企業の皆様には、引き続きまして専門講師派遣へのご協力をよろしくお願い申し上げます。